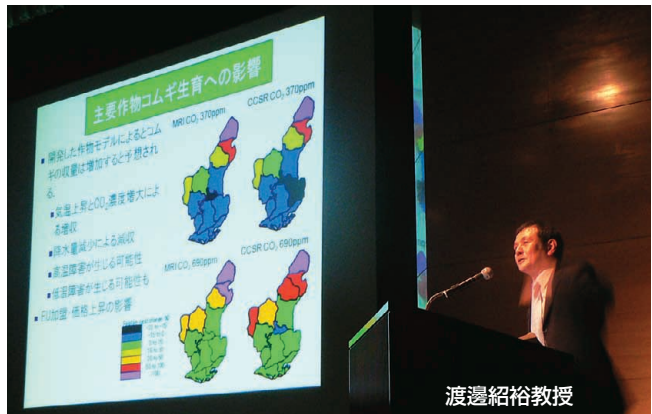


第32回農業環境シンポジウム「21世紀の農業と環境問題を考える」

21世紀には、気候変動などの様々な環境問題や資源を巡る問題の進行が懸念される一方で、世界的には、人口増や食の改善、バイオマスエネルギー需要増による大幅な農業生産増が必要となると予想されています。こうした世界が抱える農業と環境に関する課題について、気候変化・気候変動、土壌資源、水資源、資源・環境問題としての肥料などを切り口に、現状と今後の予測を紹介し、解決の方向について議論することを目的として、農林水産省の後援を得て、第32回農業環境シンポジウムを開催しました。

5月26日（水）14時から、東京・有楽町朝日ホールで開催した本シンポジウムには、民間企業からの137名をはじめ、関係者を除いて、300名以上の方々にご参加頂きました。

佐藤洋平理事長の開会挨拶の後、まず、大気環境研究領域の横沢正幸上席研究員が「気候変化・気象変動と農業・食料」について、谷山一郎研究コーディネータが「食料増産、環境変動と世界の土壌資源」について、物質循環研究領域の新藤純子領域長が「食料増産と資源・環境問題としての肥料」について、それぞれ、これまで得られている知見や研究成果を紹介



渡邊紹裕教授

しました。引き続き、総合地球環境学研究所研究推進戦略センターの渡邊紹裕教授より、「世界の水資源と食料・農業・農村」について、ご講演を頂きました。講演内容について、作付体系や品種を考慮した県レベルでの影響予測の可能性、化学資材の長期連用と土壌劣化の関係、単位面積当たりの窒素投入量・窒素投入量の問題、地域での水の循環利用などについて、会場から質問があり、こうした問題についての関心の高さを改めて感じることができました。

特別講演「温暖化時代のフードセキュリティ」では、米国アース・ポリシー研究所のレスター・ブラウン所長が、温暖化とフードセキュリティの観点から、穀物輸入国による国境を越えた土地の争奪戦の進行を指摘するとともに、2050年ではなく2020年までにCO₂の80%削減を目指すべきと呼びかけました。

(企画戦略室長 井手 任)



レスター・ブラウン氏



会場からの質問が多数寄せられました

日時： 2010年5月26日（水曜日） 14:00-17:55

会場： 有楽町朝日ホール

主催： (独)農業環境技術研究所

プログラム：

開会あいさつ（理事長 佐藤洋平）

第1部：21世紀日本と世界の農業環境が抱える課題

- (1) 気候変化・気象変動と農業・食料（横沢正幸）
- (2) 食料増産、環境変動と世界の土壌資源（谷山一郎）
- (3) 食料増産と資源・環境問題としての肥料（新藤純子）
- (4) 世界の水資源と食料・農業・農村

(総合地球環境学研究所 渡邊紹裕)

第2部：特別講演 温暖化時代のフードセキュリティ

米国アース・ポリシー研究所 レスター・ブラウン

開会あいさつ（理事 宮下清貴）